



武庫川女子大学附属総合ミュージアム 春季展「モノの棲み家、ヒトの棲み家」 5月31日から開催

戦前に建てられた大阪・美章園の民家から本学に寄贈された丸ごと一軒分の「中田家コレクション」は、昭和から平成にかけての庶民の暮らしを映す膨大な生活資料の宝庫です。このコレクションを附属総合ミュージアムで14年にわたり調査・研究。その成果をまとめた展覧会「モノの棲み家、ヒトの棲み家 ― 中田静さんの『自宅』より」を開催します。

「中田家コレクション」は、大阪・美章園（大阪市東住吉区）の町屋で1930年代から2009年まで生活した女性・中田静さん(1920～2009年)の自宅に保管されていたあらゆる生活雑貨の集合体です。中田さんが亡くなった後、遺族からの申し出を受け2009年、武庫川女子大学が「丸ごと一軒分」の寄贈を受け入れました。モノを大切にしている中田静さんならではの膨大な衣類や食器、家具、ぬいぐるみ、家族との手紙やモノの購入記録などは、昭和から平成にかけての一般庶民の暮らしを知る貴重な研究材料です。附属総合ミュージアムでは、コレクションの調査・研究を進めており、この過程で、「贈答品の中の食品」(2016年)、「粗品？粗品！」(2018年)の二つの展覧会を開催してきました。

今回は「ヒトとモノの関係」に着目。「ヒトの棲み家」であると同時に、「モノの棲み家」である「自宅」に焦点を当て、展示を行います。コレクション全体を網羅的にとらえる展示は初めてです。食器棚や収納棚にモノが詰め込まれた中田家内部の写真や、二階建ての模型も展示。昭和、平成に“タイムワープ”して、一女性の生活史を体感できる展覧会になっています。

【会期】

日時：2023年5月31日(水)～7月12日(水)

月曜～金曜 10：00～16：30

土曜 10：00～15：00

閉館日 日曜（6月25日・7月9日は10：00～15：00開館）

場所：武庫川女子大学学術研究交流館5階ギャラリー

入館料：無料

主催：武庫川女子大学附属総合ミュージアム

共催：武庫川女子大学生活美学研究所

【中田家コレクションの特色と展示例】

- 1、 未開封の缶や紙箱に入った砂糖、インスタントコーヒーなどを展示。そのモノが生産・購入された当時の状態を知ることができる。
- 2、 モノを購入した場所、値段など情報が丁寧に記録されており、モノのアーカイブとしての側面がある。タグの付いたまま未使用の洋服や、購入品のイラストを添えたノートも展示。
- 3、 戦地に赴き、刑死した実兄との往復書簡や遺品を展示。一般家庭が戦争に巻き込まれていく様子を伝える。

この件に関するお問い合わせは、取材のお申込みは

武庫川女子大学広報室（メール kohos@mukogawa-u.ac.jp）

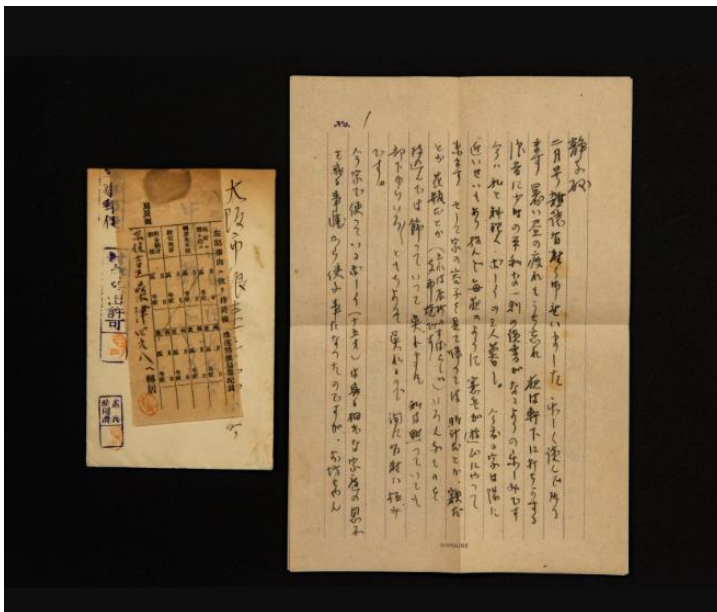
（電話 0798-45-3533）までお願いします。



女性用スーツ



道具類はチラシで包装し、品名を記載



戦地からの手紙類